

6-1 実践例 学級活動（学校給食）指導案（低学年）

指導者 教諭(T1)

栄養教職員(T2)

1 主題名 和食について知ろう（低学年・高学年共通）

2 主題設定の理由

現在、食生活は豊かになり、子どもたちは、多種多様な食品に囲まれ、季節を問わず食べたいものをいつでも手に入れられる生活を送っている。2013年日本の「和食：日本の伝統的な食文化」がユネスコ世界無形文化遺産に登録された。素材を生かした調理法で作られ、一汁三菜を基本とした理想的な栄養バランスであることや、四季があり、豊かな自然と多彩な農畜産物から生み出された食文化の独自性、さらに、日本人の食を思う気持ちや習慣、伝統的な食文化のすばらしさなどが評価されたものである。日本で生まれ育つ子どもたちに、自国の食文化のよさやすばらしさを知る良い機会であると考えます。

一方、子どもたちの和食に対する知識や認識の様子を見てみると、和食という言葉は知っているが、どんな食事か説明できる子どもは少ない。また、毎日のように使っている箸であるが、正しく持てなかったり、自分では正しく持っているつもりでも、実際には正しく持ていなかったりする子どもも多い。箸の使い方のマナーについては、高学年になるにつれ知識として知っている子どもは多かったが、正しくできている子どもは少ない。箸を正しく持つことで日本の伝統的な食事をより美味しく味わえたり、箸使いのマナーを守ることが気持ちのよい食事になったりすることも、子どもたちに知ってほしい日本の食文化である。

指導にあたっては、身近な食事である給食を利用して、和食への関心を高め、和食の素晴らしい食文化を伝えたい。また、箸の持ち方や箸使いのマナーは、和食を美味しくいただくための伝統であることも理解させ、学習したことを毎日の給食で深めていきたい。低学年の授業では、掲示資料を示しながら正しい箸の持ち方を理解させるとともに、実際に箸を手にとって仲間と持ち方を確かめ合ったり使ったりする活動を通して、正しい持ち方の定着を図る。高学年では、和食のよさについて、具体的なグラフや数値を使って理解を深める。低学年同様に箸の持ち方について指導し、和食のよさや伝統を大切にしようとする心を育てたい。本学習で学んだことを、ワークシートを通して家庭にも知らせ、保護者の関心を高めることにもつなげていきたい。

3 目標

- ・日本の伝統的な食事である和食について関心をもち、食事のマナーについて知る。(低学年)
- ・日本の伝統的な食文化である和食の良さを知り、和食への関心を高める。(高学年)

4 食育の視点

- 和食に関心をもつこと。(食文化)
- 箸の使い方などの食事のマナーを身に付けること。(社会性)

5 指導計画 1時間

	学習活動	指導上の留意点	資料・教具	備考
導 入	<p>1 いくつかの給食の献立写真を見せ、2つに分類しながら和食の共通点について考える。</p> <p>2 「和食」という言葉やその特徴を知るとともに、食べる時に使うはしの使い方やマナーについて学習することを教える。</p>	<p>○実際の給食の写真を提示することで興味を起こさせ、和食はごはんとはしの文化であることに気づかせる。</p> <p>○「和食」という言葉を知らせるとともに、「和食」とはごはん、汁物、2～3種類のおかずがあり、はしを使うことを確認する。</p> <p>○本時は、はしの使い方やマナーについて学習することを知らせる。</p> <p>○実態に応じて、「和食」が昔から食べられていることや、世界から注目されていることなどに触れる。</p>	給食で和食と洋食それぞれの献立の写真	T 1
めざせ はしめいじん				
展 開	<p>3 はしの持ち方やマナーについて知る。</p> <p>○正しい持ち方を知り、実践してみる。</p> <p>(1) 図を見ながら説明を聞く。</p> <p>①上のはしの持ち方 ②上のはしを動かす。 ③下のはしの持ち方 ④正しいはしの持ち方 ⑤正しいはしの持ち方で上のはしを動かす</p> <p>(2) 隣同士ではしの持ち方、動かし方を見る。</p> <p>(3) 正しい持ち方で、豆をつまみ別の皿に移動させ</p>	<p>○図で示し、正しい持ち方が身につくようにさせる。</p> <p>○隣同士で交互に練習するように伝える。</p>	<p>掲示資料 はし (一人一膳)</p> <p>皿 豆数粒</p>	<p>T 1 T 2</p>

	<p>る練習をする。</p> <p>○使い方について知る。</p> <p>○マナーについて知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっではいけないはし使いについて知る。 ・はしの数え方，食器の置き方について知る。 	<p>○豆がうまくつまめない児童のために豆よりつまみやすいものとしてスポンジを小さく切ったものを一緒に入れておき，そちらで練習してもよいことを伝える。</p> <p>○次の活動の前に，はしと皿を回収する。</p> <p>○実際にしている映像を見せながら，はしの使い方を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まぜる ・はさむ ・くるむ ・切る ・つまむ <p>○はしづかいのマナー違反について知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さしばし ・まよいばし ・なみだばし ・よせばし ・はしわたし など <p>○はしは何膳と数えることや、ごはんは左側や汁物は右側へ、はしは持つ方を右側にして手前へ置くことを知らせる。</p>	<p>スポンジを小さく切ったもの</p> <p>はしの使い方 の映像 (DVD等) カード</p> <p>カード</p> <p>和食給食の 写真</p>	<p>T 2 説明 T 1 機材 操作 等</p> <p>T 2 説明 T 1 カー ド掲 示等</p>
ま と め	<p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返り，分かったこと，これからの生活で気をつけたいことなどを書く。 	<p>○ワークシートをまとめさせる。</p> <p>○数名の児童に発表させる。</p>	<p>ワークシ ート</p>	<p>T 1</p>

7 評価

- ・日本の伝統的な食事として「和食」に関心をもつことができたか。
- ・「はし」の正しい持ち方を知り，マナーに気をつけて食べようとする意欲が持てたか。

6-2 実践例 学級活動（食育）指導案（高学年）

指導者 T 1 教 諭

T 2 栄養教職員

- 1 主 題 和食について知ろう
- 2 主題設定の理由 低学年に準ずる
- 3 目 標 日本の伝統的な食文化である和食の良さを知り，和食への関心を高める。
- 4 食育の視点 低学年に準ずる
- 5 指導計画（1時間）
- 6 展 開

	学 習 活 動	指導上の留意点	資 料	備考
導 入	1. グラフ1とグラフ2を見せ，何を表しているのかを考えさせる。	・グラフ1は日本が最高のもの， グラフ2は日本が最低であるというヒントから考えさせる。	・グラフ1 世界の平均寿命 グラフ2 世界の肥満度	T 1
	2. どうして日本人は長生きで，肥満が少ないのか考えさせる。 ・食事がいい ・野菜が多い ・医療が発達している	・日本人が長生きで肥満が少ない理由を考えさせることによって，和食のよさに気付かせる。		T 1
展 開	3. 学習課題を知る。	和 食 の よ さ を 知 ろ う		
	4. 和食のイメージを発表し合う。	・事前アンケートを参考にする。 ・和食のメニュー，食材，味付け，和食を食べる時に使う物など，和食と聞いて思いつくことを発表させる。		T 1
	5. 和食のよさを知る。 ○和食のよさについて栄養士の先生の話聞く。 ・多様な食材を使い，季節感がある（食材） ・行事との関わりがある（日本の伝統）	・和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを伝え，世界でも注目を浴びていることを知らせる。 ・和食は，ごはんを中心に多様な食材を使った季節感あふれる素晴らしい食事であること	・和食の特徴（4つのカード） ・季節の食材や行事の料理	T 2

	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や味付けに工夫がある（調理） ・栄養のバランスがよい（食べ方） 	<ul style="list-style-type: none"> を伝える。 ・洋食の料理と比べてバランスが整っていることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> の写真 ・欧米の食事と比べた蜘蛛の巣グラフ 	
6.	日本の食文化である箸の正しい持ち方について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい箸の持ち方を示す。下の箸を挟み、上の箸だけを動かす。 ・丸めたスポンジを箸で挟み、持ち上げる練習をすることにより、正しい箸の持ち方を理解させる。 ・豆を箸で掴んで練習する。（グループ活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい箸の持ち方の図 ・給食の箸 ・スポンジ ・豆 ・豆を置く皿 	T 1 T 2
ま と め	7. 分かったことや感想をまとめる。	・ワークシートにまとめさせ、学習をふり返らせる。	・ワークシート	T 1
	8. 分かったことや感想を発表する。	・ワークシートを家に持ち帰り、家庭への啓発を図り、実生活で和食を毎日の食事に取り入れたり、箸を正しく使うことができたりすることへつなげていく。		T 1

6 評価 日本の伝統的な食文化である和食の良さを知り、和食への関心を高めることができたか。